

# HTML/CSS入門の入門

---

「HTML+CSS入門ハンズオン！ゆるーくWebサイトを作ってみる会」 予習用テキスト

## 1.本テキストについて

- 1-1.概要
- 1-2.学習の狙い
- 1-3.対象
- 1-4.前提条件
- 1-5.推奨環境
- 1-6.テキストの読み方
- 1-7.テキストの進め方

## 2.Webサイトの土台を作ろう

- 2-1.基本的なタグの説明
- 2-2.タイトルテキストを表示してみよう
- 2-3.ロゴ画像を表示してみよう
- 2-4.コンテンツテキストを表示してみよう

## 3.Webサイトに装飾をつけよう

- 3-1.CSSの基礎知識
- 3-2.CSSを書く準備をしよう
- 3-3.要素に名前をつけてみよう
- 3-4.文字に装飾をつけてみよう
- 3-5.サイトのサイズを指定してみよう
- 3-6.サイトを中央に表示してみよう
- 3-7.余白を入れてみよう
- 3-8.背景画像を設定してみよう
- 3-9.背景の色を変えてみよう
- 3-10.背景を透過してみよう
- 3-11.CSSを外部ファイル化してみよう

## 4.最後に

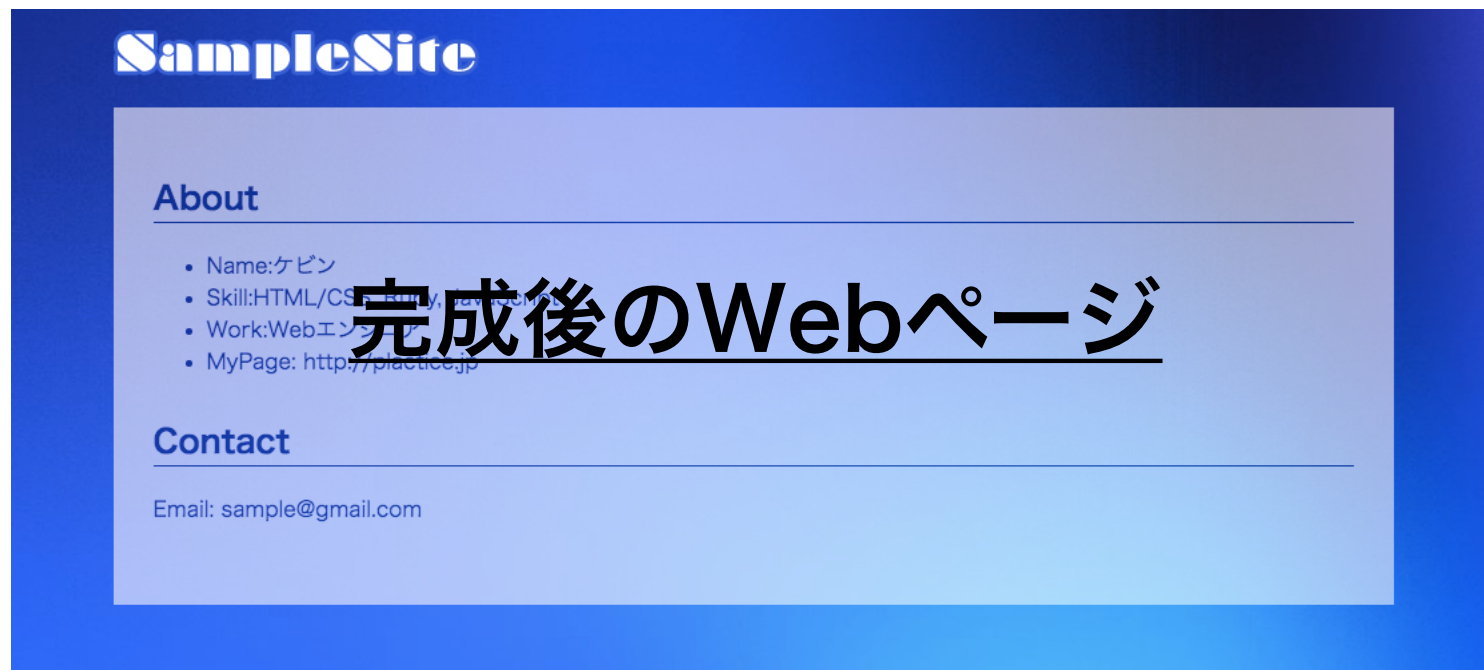
# 1.本テキストについて

# 本テキストについて

## 概要

HTML/CSSで頻繁に使用されるタグやプロパティを使用し、簡易なプロフィールサイトを作成していきます。

解説を読みながら資料中に記載のあるHTML/CSSを書いていくことで、以下のWebページが完成します。



# 本テキストについて

## 学習の狙い

本テキストの狙いは、受講者の方にHTML/CSSの輪郭を掴んでいただくことです。

書いてあること全てを覚える必要はありません。

また、難しい箇所があれば、後述の回答ファイルからコードをコピーして進めていただいても大丈夫です。あまり難しく考えず、何となく「Webサイトを作るってこういう感じなんだ」というノリを掴んで頂ければと思います。

## 対象

以下の様な方を対象としております。

- ◆ 最近HTML/CSSの勉強を始めた
- ◆ 過去HTML/CSSに挑戦した際に、心が折れてしまった
- ◆ HTML/CSSは何となく知っているが、Webサイトを作ったことはない

# 本テキストについて

## 前提知識

本テキストは以下の知識があることを前提に書いております。  
もし分からない項目があれば、課題を行う前に理解しておきましょう。

- ◆ **HTML/CSS**がそれぞれの様な役割を持っているか知っている
- ◆ HTML/CSSを書くには**テキストエディタ**と呼ばれるソフトが必要であることを知っている
- ◆ Webサイトを見るためには、**ブラウザ**(Google Chrome, IE等)と呼ばれるソフトが必要であることを知っている

## 推奨環境

以下の環境でテキストを進めていただくことを推奨しています。

- ◆ テキストエディタ: Brackets ダウンロード先: <http://brackets.io/>
- ◆ ブラウザ: Google Chrome <https://www.google.com/chrome/browser/>

# 本テキストについて

## テキストの読み方

第2章以降(8ページ目以降)は以下の図を見ながらHTML/CSSファイルへコードの記載を行っていきます。

例: テキスト9ページ目

編集を行うファイルの名前

```
profile.html
省略
<body>
  
  <p>Contact</p>
  <ul>
    <li>Name:ケビン</li>
    <li>Skill:HTML/CSS, Ruby, JavaScript</li>
    <li>Work:Webエンジニア</li>
    <li>MyPage: http://plactice.jp</li>
  </ul>
  <p>Contact</p>
  <p>Email: sampale@gmail.com</p>
省略
```

追記/編集を行う箇所

ブラウザ

SampleSite

About

- Name:ケビン
- Skill:HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work:Webエンジニア
- MyPage: http://plactice.jp

Contact

Email: sampale@gmail.com

ブラウザ上での表示

※ HTMLファイルをブラウザで開いた場合の表示内容

## テキスト進め方

ドキュメントと一緒にダウンロードをしていただいた、sampleというフォルダ内のHTML/CSSファイルを編集していきます。どのファイルの編集を行うかは、2章以降の各セクション(ページ)で都度指定をしていますので、そちらに沿って編集を行ってください。

また、回答としてanswerというフォルダに、完成品のHTML/CSSファイルが入れてあります。難しい箇所やわからない箇所があれば、こちらからコードをコピーして次のセクションに進んで頂いても問題ありません。

各セクションにコードの解説が記載してありますが、まずは理解することよりも、作りきることを目標とし、とりあえず書いてあるコードを写してみるぐらいの気持ちで気軽に進めていただければと思います。



## 2.Webサイトの土台を作ろう

# 基礎知識の復習 タグの説明

## タグについて

HTMLはタグというものを使用し記載を行ってきます。タグは<と>で囲まれた文字要素になります。タグには開始タグと閉じタグの2種類があり、開始のタグは<タグ名>の様に書き、閉じタグは</タグ名>と書きます。

HTML文書はすべてこのタグを使って記載を行います。 ※ タグは必ず半角文字で記載をしましょう

## 基本的なタグ

### <html>タグ

htmlのすべてのタグは<html></html>の中に記載を行います。この文章はhtmlですという宣言を行うためのタグになります。

### <head>タグ

Webサイトのタイトル(後述の<title>タグ)等、ページの情報を記載するためのタグになります。

### <title>タグ

Webサイトのタイトルを表示するためのタグになります。必ず<head>タグの中に記載します。

### <body>タグ

ブラウザ上に表示する内容を記載するためのタグになります。

# Webサイトの土台を作ろう - タイトルテキストを表示してみよう

まずは本サイトのコンテンツタイトルテキストを入れましょう。コンテンツにはAbout(自己紹介)とContact(連絡先)が入りますので、左記のコードを見ながらはタイトルを入れてみましょう。

profile.html

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>SampleSite</title>
</head>
<body>
  <div>
    <h2>About</h2>
    <h2>Contact</h2>
  </div>
</body>
</html>
```

解説

## divタグについて

divはタグのグループを表現するためタグです。グループと言われても今はピンとこないと思いますが、それで大丈夫です！とりあえずコードを写してみましょう。

## h2タグについて

h2はWebサイトの見出しを指定するためのタグの一つです。左記のコードではサイト内に記載するコンテンツのタイトル箇所>AboutとContact)を見出しとして記載をしています。

ブラウザ

About  
Contact

# Webサイトの土台を作ろう - ログ画像を表示してみよう

続いてサイトのロゴ画像を入れてみましょう。右の枠内のHTMLコードを見ながら<img>で始まるタグを追記しましょう。

profile.html

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>SampleSite</title>
</head>
<body>
  
  <div>
    <h2>About</h2>
    <h2>Contact</h2>
  </div>
</body>
</html>
```

## 解説

### imgタグについて

サイト上に画像を表示させる際に使用するタグです。これまで出てきたタグとは異なり、閉じタグが存在しません。更にこのタグには表示を行いたい画像の場所を指定する必要があります。その指定を行うのがsrc属性になります。このsrcに指定している"img/logo.png"の部分が画像の場所(パスと言います)になります。

※ パスの説明はここでは割愛しますが、気になる方は「htmlパスとは」でグーグル検索をしてみてください。

## ブラウザ

SampleSite

About

Contact

# Webサイトの土台を作ろう - コンテンツテキストを表示してみよう

サイトのコンテンツ(自己紹介と連絡先)を書いてみましょう。<li></li>の中は自由に変えてしまっても大丈夫です。

profile.html

省略

```

<div>
  <h2>About</h2>
  <ul>
    <li>Name:ケビン</li>
    <li>Skill:HTML/CSS, Ruby, JavaScript</li>
    <li>Work:Webエンジニア</li>
    <li>MyPage: http://plactice.jp</li>
  </ul>
  <h2>Contact</h2>
  <p>Email: sample@gmail.com</p>
</div>
```

省略

## 解説

### ul, liタグについて

HTMLでリスト(箇条書きの文章の固まり)を表現したい際に使用します。なにやら小難しい感じもありますが、ここでは「こんなタグもあるんだ」ぐらいの気持ちで書いてみてください。

※ 実はHTMLにはリストを表現するためのタグが何種類あります。気になる方は「html リスト構造タグ」でグーグル検索をしてみてください。

### pタグについて

HTMLで段落を指定する際に用いるタグになります。<p></p>で囲まれた部分がひとつの段落です。

## ブラウザ

SampleSite

About

- Name:ケビン
- Skill:HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work:Webエンジニア
- MyPage: http://plactice.jp

Contact

Email: sample@gmail.com

## 2.Webサイトに装飾をつけよう

# CSSの基礎知識

ここからはCSSのコードを記載していきます。CSSはWebサイトの土台(HTML)に対し、装飾をつけるための言語になります。コードを書く前に、CSSの基礎をおさらいしておきましょう。

CSSでは下記の様な記述を行い、装飾を指定します。ここではpタグで囲まれている文字のサイズを変更するためのCSSを見てみましょう。

```
p { font-size: 16px; }
```

CSSの記述を行う際には「**どこの**」、「**何を**」、「**どの様に**」の3点の情報を書いてく必要があります。

## 1.どこの

「**どこの**」には装飾をつける対象が入ります。ここには後述するclass名(HTML要素につける名前)やHTMLのタグ名(pやul,li等)が入り、後述のプロパティと値を{ }で囲むように記述を行います。

## 2.何を

装飾の対象がきまったら、対象の「**何を**」を変更するのかを指定する必要があります。上記ではfont-size: ;がこの「何を」に該当します。これをプロパティと呼びます。後述する値を:(**コロン**) ;(**セミコロン**)で囲むように記述を行います。このプロパティと値は、一つの要素に対し複数指定を行うことが可能です。

## 3.どの様に

何を変更するかがきまれば、最後はそれをどの様に変更するのかを指定する必要があります。ここに入る情報は値と呼ばれます。上記の場合はpxと呼ばれる数値が入りますが、値の形式はプロパティによって異なります。

# Webサイトに装飾をつけよう - CSSを書く準備をしよう

ここでは、次のセクションからCSSを書いていくための準備を行います。下記を参考にheadタグ内にstyleタグを入れてみましょう。

profile.html

省略

<head>

<meta charset="UTF-8">

<title>SampleSite</title>

<style>

</style>

</head>

<body>

省略

## 解説

### styleタグについて

HTML内にCSSを書く場合は、styleタグを使用します。styleタグは必ずheadタグの中に書く必要があるため、bodyタグの中に入れないように注意しましょう。

## ブラウザ

SampleSite

About

- Name: ケビン
- Skill: HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work: Webエンジニア
- MyPage: <http://plactice.jp>

Contact

Email: [sampale@gmail.com](mailto:sampale@gmail.com)



# Webサイトに装飾をつけよう - 要素に名前をつけてみよう

HTMLにCSSを反映するため、divタグに名前をつけてみましょう。ここではまだ名前をつけるだけなので、Webサイト見た目は変わりません。

profile.html

省略

```
<body>
```

```

```

```
<div class="contents">
```

```
<h2>About</h2>
```

省略

```
<h2>Contact</h2>
```

```
<p>Email: sample@gmail.com</p>
```

```
</div>
```

省略

## 解説

### classについて

CSSを反映するためにはHTML要素にclass(名前)を付けるのが最も一般的な方法になります。classは左記のコードの様にclass="名前"で指定を行います。「名前」に入れる文字は自由ですが、なるべく、その要素が何を表しているのかわかる様な言葉を選びましょう。

※HTML要素に名前をつける手段はclass以外にもidというものがあります。idについては、ここでは割愛しますが、気になる方は「html class id」でグーグル検索をしてみましょう。

## ブラウザ

SampleSite

About

- Name: ケビン
- Skill: HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work: Webエンジニア
- MyPage: <http://plactice.jp>

Contact

Email: sample@gmail.com

# Webサイトに装飾をつけよう - 文字に装飾をつけてみよう1

ここでは文字の色やサイズ、太さの変更を行います。変更を行いたい要素にclassをつけて、左のコードのようにCSSを書いてみましょう。

profile.html

```
省略
<style>
    .contents {
        color: #0a1084;
    }
    .title {
        font-size: 24px;
        font-weight: bold;
    }
</style>
</head>
<body>
省略
<h2 class="title">About</h2>
省略
<h2 class="title">Contact</h2>
省略
```

## 解説

### colorプロパティについて

文字色を変更する際に使用するプロパティです。ここではカラーコードを使用して、色の指定を行っています。(カラーコードの詳細については後述します)

### font-sizeプロパティについて

文字のサイズを変更するためのプロパティです。文字サイズはpxという単位で指定を行います。

### font-weightプロパティについて

文字の太さを変えるためのプロパティです。boldは文字を太字にするための値になります。

## ブラウザ

SampleSite

### About

- Name: ケビン
- Skill: HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work: Webエンジニア
- MyPage: <http://plactice.jp>

### Contact

Email: [sample@gmail.com](mailto:sample@gmail.com)

# Webサイトに装飾をつけよう - 文字に装飾をつけてみよう2

続けてコンテンツのタイトルに下線を入れてみましょう。ここまで出てきたCSSプロパティにくらべると少し指定方法が複雑になりますので、解説をじっくりと読みながら写してみてください。

profile.html

```
省略
<style>
  .contents {
    color: #0a1084;
  }
  .title {
    border-bottom: solid 1px #0a1084;
    font-size: 24px;
    font-weight: bold;
  }
</style>
</head>
<body>
省略
<h2 class="title">About</h2>
省略
<h2 class="title">Contact</h2>
省略
```

## 解説

### border-bottomプロパティについて

文字に下線をつけるためのプロパティになります。このプロパティには複数の値を指定します。1番目の値が線の種類、2番目の値は線の太さ、3番目が線の色になります。この様な複数の値を取るプロパティには、値の間に半角スペースを入れ指定を行います。

## ブラウザ



# Webサイトに装飾をつけよう - Webサイトのサイズを指定してみよう

ここではWebサイトの幅を指定してみます。通常Webサイトは幅を決めた上で作成を行いますので、ここでも例にならい幅の指定を行っていきます。

profile.html

省略

```
<style>
```

```
  .container {  
    width: 960px;  
  }
```

省略

```
</style>
```

```
</head>
```

```
<body>
```

```
  <div class="container">
```

```
    
```

```
    <div class="contents">
```

省略

```
  </div>
```

```
</div>
```

省略

## 解説

### widthプロパティについて

Webサイトの幅を指定する際はこのwidthプロパティを使用します。値はこれまでも出てきたpxという単位で指定を行います。

ここではWebサイトの標準的なサイズである960pxを指定します。

また、ここではWebサイト全体にCSSの反映を行いたいため、新たにサイト全体を囲うcontainerというclass名のdivタグを追記しています。

## ブラウザ

SampleSite

### About

- Name: ケビン
- Skill: HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work: Webエンジニア
- MyPage: <http://plactice.jp>

### Contact

Email: [sample@gmail.com](mailto:sample@gmail.com)



960px

# Webサイトに装飾をつけよう - サイトを中央に表示してみよう

先ほど幅を指定した際にWebサイトが左側に寄ってしまいました。これではあまり見栄えがよくないので、Webサイトが中央に表示される様にCSSを追記してみましょう。

profile.html

省略

```
<style>
```

```
  .container {  
    width: 960px;  
    margin: auto;
```

```
  }
```

省略

```
</style>
```

```
</head>
```

## 解説

### marginプロパティについて

ここではmarginプロパティを使用することで、Webサイトを中央表示にしました。実はこのmarginはWebサイトに余白を入れるためのプロパティになります。余白をとるためのmarginの使い方については次のセクションに記載します。ここでは、marginはある要素を中央に配置したい場合にも使用されるプロパティであるということを覚えておいてください。

## ブラウザ

SampleSite

### About

- Name: ケビン
- Skill: HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work: Webエンジニア
- MyPage: <http://plactice.jp>

### Contact

Email: [sample@gmail.com](mailto:sample@gmail.com)

# Webサイトに装飾をつけよう - 余白を入れてみよう1

大分完成に近づいてきました。ただ、各要素同士の間に余白がないため、全体的に少し窮屈に見えてしまいます。見栄えを良くするため要素の間に余白をいれていきましょう。

profile.html

```
省略
<style>
  .container {
省略
  }
  .contents {
    background-color: black;
    color: #0a1084;
  }
  .content {
    margin-bottom: 30px;
  }
省略
<div class="contents">
  <div class="content">
    <h2 class="title">About</h2>
省略
  </div>
  <div class="content">
    <h2 class="title">Contact</h2>
    <p>Email: sample@gmail.com</p>
  </div>
</div>
省略
```

## 解説

### margin-bottomプロパティについて

先ほどのmargin系列のプロパティになります。要素の下にのみ余白を入れたい場合はこのmargin-bottomを使用します。値は上記の様にピクセルで指定します。ここでは各コンテンツ要素(AboutとContact)の間に余白を入れるために使用しています。また、各コンテンツ間に余白を入れたいので、新たにAboutとContactをそれぞれcontentというclass名を持ったdivタグで囲っています。

## ブラウザ

SampleSite

### About

- Name: ケビン
- Skill: HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work: Webエンジニア
- MyPage: <http://plactice.jp>

### Contact

Email: [sample@gmail.com](mailto:sample@gmail.com)

# Webサイトに装飾をつけよう - 余白を入れてみよう2

続けてロゴとコンテンツの間にも余白を入れてみましょう。ここではpaddingというプロパティを使用し余白を入れてみます。

profile.html

```
省略
<style>
  .container {
省略
  }
  .logo {
    padding: 15px 0;
  }
  .contents {
    background-color: black;
    color: #0a1084;
    padding: 30px;
  }
省略
<div class="container">
  <div="logo">
    
  </div>
  <div class="contents">
省略
```

## 解説

### paddingプロパティについて

要素に余白を入れるためのプロパティになります。左記の様にピクセル値を渡すと上下左右に余白が入ります。ここではコンテンツ全体に余白をいれるために使用します。

※ 実はmarginもpaddingも余白をとるという意味では同じ用途で使われるプロパティなのですが、それぞれで異なる部分もあります。両者の使い分けについては、書き手の好みに左右される所もありますので、ここでは割愛しますが、気になる方は「padding margin 違い」でグーグル検索をしてみてください。

## ブラウザ

SampleSite

### About

- Name: ケビン
- Skill: HTML/CSS, Ruby, JavaScript
- Work: Webエンジニア
- MyPage: <http://plactice.jp>

### Contact

Email: [sample@gmail.com](mailto:sample@gmail.com)

# Webサイトに装飾をつけよう - 背景画像を設定してみよう

Webサイトに背景をつけるため、背景画像の設定をおこないます。先ほど背景色の設定は行いましたが、ここでは背景に画像ファイルを指定する方法をご紹介します。

profile.html

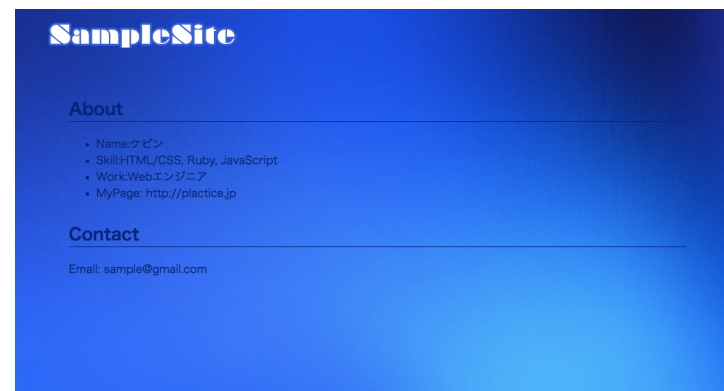
```
省略
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>SampleSite</title>
  <style>
    body {
      background: url(img/bg.jpg);
    }
  </style>
</head>
省略
```

## 解説

### backgroundプロパティについて

先ほども出てきたbackgroundプロパティは背景に画像を設定することも可能です。値に色の情報ではなく画像ファイルの場所(HTMLの章で出てきたimgタグと同じ記法)を指定することで背景に画像を設定することができます。

## ブラウザ





# Webサイトに装飾をつけよう - 背景の色を変えてみよう

contents要素に背景色をつけてみましょう。左のコードの様にstyleタグ内にCSSを書いてみましょう。

profile.html

省略

<head>

<meta charset="UTF-8">

<title>SampleSite</title>

<style>

省略

.contents {

background-color: white;

color: #0a1084;

padding: 30px;

}

省略

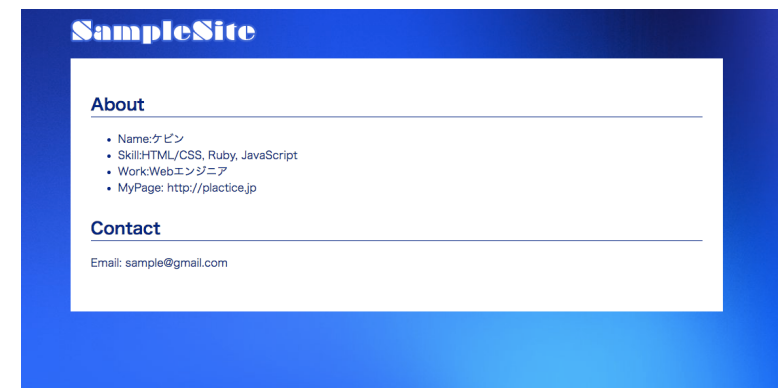
## 解説

### background-colorプロパティについて

要素に背景色をつけるにはbackground-colorを使用します。値には色の情報を渡します。今回はわかりやすくするために、色の指定を単語で行っていますが、実際のWeb制作ではカラーコードを使用して、色の指定するケースが一般的です。(どちらでも色の指定は可能です。)

※ カラーコードとは色を表す、特殊な文字コードのことを言います。とりあえずは色を指定するための特殊な文字列があるということだけ理解していただければ、大丈夫です。気になる方は「CSS カラーコード」でグーグル検索をしてみてください。

## ブラウザ



# Webサイトに装飾をつけよう - 背景を透過してみよう

最後にコンテンツ部分の背景色が少し透けて見える様に変更してみましょう。

profile.html

省略

<head>

<meta charset="UTF-8">

<title>SampleSite</title>

<style>

省略

.contents {

background-color: white;

color: #0a1084;

padding: 30px;

**opacity: 0.7;**

}

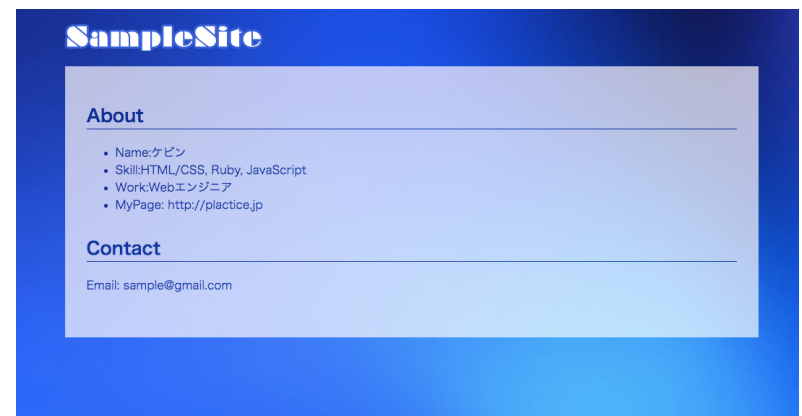
省略

## 解説

### opacityプロパティについて

要素の透明度を指定するためのプロパティになります。値は0.0~1.0の間の数値で指定を行います。1.0がデフォルト(要素が一切透過されていない状態)になり、0.0に数値が近づくほど、要素の透明度が強くなります。因みに0.0にすると要素が完全に透明になり、ブラウザ上に表示されない状態となります。

## ブラウザ



# Webサイトに装飾をつけよう - CSSを外部ファイル化してみよう

前のセクションで本テキストのCSS部分はすべて記載したことになりますが、最後にこのCSSを外部ファイルとして呼び出す様に変更をしてみましょう。

profile.html

省略

<head>

<meta charset="UTF-8">

<title>SampleSite</title>

**<style> ※ styleタグで囲われている箇所を削除  
省略**

**</style>**

**<link rel="stylesheet" href="css/style.css">**

</head>

省略

解説

## CSSファイルの外部化について

ここまでstyleタグの中にCSSの記載を行ってきましたが、通常のWeb制作ではCSSは別ファイルとして切り出すケースが多いのです。その場合、左記の様にHTMLファイルにはheadタグの中に**linkタグ**(CSSファイルの置き場所)の記載します。

外部ファイル化を行う理由はいくつかありますが、メリットの一つとして複数ページが存在するWebサイトでは同じCSSを使いまわしたいケースがあり、外部ファイルにしておけば、その共通化が行えるといったことが挙げられます。(styleタグを使用した場合、HTML毎にCSSをベタ書きすることになるため)

css/style.css

## styleタグで囲っていた箇所をコピー

※ <style>と</style>はコピー不要

※ bodyに指定したbackgroundプロパティの値のみ以下のように変更をしてください。

変更前: url(img/bg.jpg) → 変更後: url(../img/bg.jpg)

ブラウザ



## 4.最後に

最後までテキストを進めていただきありがとうございます。

いかがだったでしょうか、サンプルのWebサイトは完成しましたか？

本テキストは私がHTML/CSSをはじめたばかりの頃、自身が学習の妨げになっていた  
感じている細かい説明を省略し、とにかく一度Webサイトを作ってみるということに  
軸をおき作成しました。

まだなんとなくHTML/CSSが理解できているのか不安に感じている方もいらっしゃる  
かもしれませんが、それで大丈夫です。Webサイトを1つ2つ作ったぐらいでは、なん  
となくHTML/CSSの輪郭がつかめる程度の理解で然るべきだと思っています。

HTML/CSSを更に理解してみたいというかたはドットインストール等のオンライン上  
で受けられる無料講座を受けてみることをおすすめします。

また、私はこのドキュメントの続きにあたる講座をワークショップ形式で定期的に行っ  
ています。もし興味を持っていただける方がいらっしゃいましたら、一度ワークショッ  
プに足を運んでいただければ幸いです。